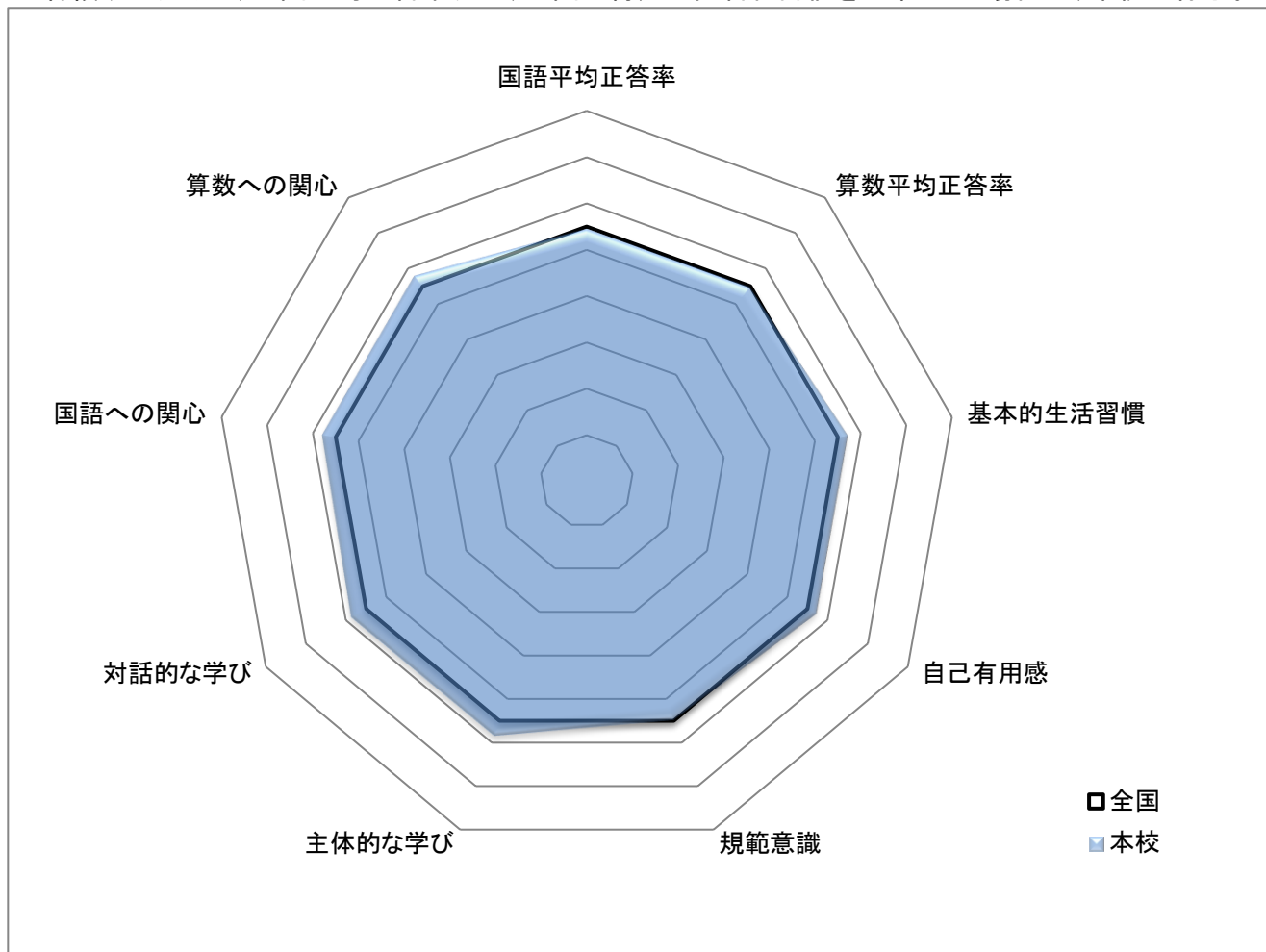


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

○昨年度に比べ、国語算数両科目とも、全国平均に近い得点を獲得している。

国語	昨年度	全国平均と-2.8差
	今年度	全国平均と-0.7差
算数	昨年度	全国平均と-3.6差
	今年度	全国平均と-0.4差

○学習内容への興味関心が深いので、授業へ積極的に参加する児童が多いことが、学力の向上につながっていると考えられる。

○対話的かつ主体的に取り組むことができる学習を好んでいるため、自身の学習理解をより実感できたり、友達と学習を深め合ったりできているのではないかとと思われる。

《授業改善のポイント》

○国語、算数共に一般正答率が高い基本問題の取りこぼしが目立った。漢字の基礎知識を低学年から積み重ねるべく、漢字王を実施する。計算力を養うべく、がんばルンバ選手権を実施する。

○校内研究を中心に、ユニバーサルデザインを意識した授業改善を行い、習熟の深浅問わず、全員が授業に参加して考えを深めることができる手立てを講じる。

○各教科の授業内で、既習事項の確認や適用問題による習熟を行う。

○各教科で対話的な学びができるように、多様な対話方法を工夫する。それにより、自分の意見と比べながら友達の意見を聞いたり、友達の意見を聞いて「なるほど」と思ったり参考にしたりして、友達の意見を自分の考えに生かすことができるようにする。

《チャートの特徴》

○国語算数共に、全国平均点に近い校内平均点を獲得している。

○国語算数共に、教科への関心が深い。

○対話形式の学習方法、主体性を求める学習方法を好む児童が多い。

○生活習慣の確立、自己有用感の意識、規範意識はいずれも全国平均を超えている。

《家庭・地域への働きかけ》

○個人面談や通知表などで、児童の学習の成果と課題を共有していくとともに、家庭学習での定着を促す。

○算数では、ベーシックドリルの結果を受けて、放課後補習及びスキリタイムを有効活用する。

○個々の習熟度に応じた復習を行うために、ドリルパークを活用する。